

●日本語日本文学専攻、人文科学専攻(日本語日本文学領域)

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
日本文学	勝亦 志織 KATSUMATA,SHIORI 教授 博士(日本語日本文学)	<b>日本古典文学、中古から中世の王朝文学</b> 古典文学作品は「書かれた」ものとして継承されてきた。例えば『枕草子』には清少納言が仕えた藤原定子の「語り」を「書記」したという体裁を取る章段が含まれている。特定の誰かの「語り」を「書記」することで構成される意図は何か、平安時代作品における「書記」と「語り」に着目して作品形成の意図を研究している。	博士:研 修士:研
日本文学	酒井 敏 SAKAI,SATOSHI 教授 文学修士	<b>日本近現代文学・文化(児童文学・文化を含む)</b> 『雁』や「渋江抽斎」など森鷗外作品を幅広い視点から考察した作品論を執筆する一方、鷗外宛書簡の翻刻・解説や関わりを持った人物との交流を詳細に調査する営みを通して実証的な作家研究を行っている。最近では、「森鷗外と同時代美術」「『雁』の総合的研究」を主要なテーマとして、論文を継続的に発表している。	博士:研 修士:研
日本文学	徳竹 由明 TOKUTAKE,YOSHIAKI 教授 修士(文学)	<b>日本中世文芸、説話・伝承文芸、対外認識・対外戦争言説</b> 日本の文芸は、異国・異域をどのように描いてきたのか。憧れ・好奇心・対抗心・蔑視等様々な眼差しがあるはずである。特に異国・異域との接触の中で最も極端なケースである対外戦争(蒙古襲来や文禄・慶長の役等)の、日本各地の伝承を含めた言説の研究に、現在最全力を注いでいる。	博士:研 修士:研
日本文学	柳沢 昌紀 YANAGISAWA,MASAKI 教授 文学修士	<b>日本近世文学、書誌学</b> 仮名草子、近世軍書を中心に、それらがどのように書かれ、流布されたかを研究している。草稿本、清書本、刊本とどのように本文が変化したのか、刊本にはどんな版種があるか、本文や挿絵の変遷の裏に作者や製作者のどのような意図が窺えるか、といった問題について、書誌学的手法でアプローチしている。	博士:研 修士:研
日本語学	西川 ゆみ NISHIKAWA,YUMI 准教授 博士(文学)	<b>中国古典文学、六朝文学</b> 中国魏晋南北朝期の詩歌、楽府、辞賦作品を対象とし、表現形式の成立と発展過程について研究している。賦作品では特定の題材を描く作品群の通時的変遷、歌謡作品では歌題の伝承過程と共作者間におけるイメージの共有について考察を行っている。	博士:講 修士:研
日本語学	後藤 英次 GOTO,EIJI 教授 修士(文学)	<b>日本語史</b> 平安時代～江戸時代初期頃の古記録資料の文体のバリエーション、およびその史の変遷について研究している。古記録は漢字専用表記を主体としており、一見ただけではどれも同じように見えるが、記主により、また時代によりさまざまな相違がある。主に用語の面からその相違について考えている。	博士:研 修士:研
日本語学	宮内 佐夜香 MIYAUCHI,SAYAKA 教授 博士(文学)	<b>日本語学、日本語史、文法史</b> 中世以降現代までに生じた接続表現(主として逆接)の通時変化について研究している。近年は接続表現形式を指標とした各資料の文体特徴研究も行って、特に「標準語」がどのような来歴を持っているかということを考えている。	博士:研 修士:研
日本語学	宮澤 太聡 MIYAZAWA,TAKAAKI 教授 博士(日本語教育学)	<b>日本語学、日本語教育学、文章・談話論</b> 文章・談話のまとまりである「段」にかかわる言語形式について研究している。大小さまざまに関連しあう多重的な意味のまとまりである「段」を動態的に捉え、言語形式をとともに分析することで、実践的な文章・談話の表現・理解に役立てたいと考えている。	博士:研 修士:研
日本語学	平塚 雄亮 HIRATSUKA,YUSUKE 准教授 博士(文学)	<b>地域言語論</b> 日本語方言、特に消滅の危機に瀕した方言の記述的研究を行っている。フィールドは九州、特に鹿児島県の甑島里方言の文法記述や辞書・テキスト作成に力を入れている。また、近年はコーパスを用いた対照方言研究も行っている。これまでの研究成果を教育に生かすべく、大学で使用する教科書の執筆作業も随時進めている。	博士:研 修士:研
日本語文化	甘露 純規 KANRO,JUNKI 教授 博士(文学)	<b>日本近代文学、近代出版史</b> 近代日本の盗作事件を題材にオリジナリティの問題を研究している。関連して記憶術・忘却術の歴史的研究を行っている。	博士:研 修士:研
日本語文化	中川 豊 NAKAGAWA,YUTAKA 教授 博士(文学)	<b>図書館学、書誌学、近世文学</b> 近世歌人や国学者を対象に、口授や通信指導、典籍の貸借による転写といった手段により伝えられる知について、その蓄積や伝播について研究している。また古典籍目録なども作成している。	博士:研 修士:研

●日本語日本文学専攻、人文科学専攻(日本語日本文学領域)

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
日本語文化	西嶋 頼親 NISHIJIMA, YORICHIKA 講師 修士(システムエンジニアリング学)	<b>広告・メディア/ロボット</b> 民間企業での広告・映画・テレビ番組・雑誌・ロボット等の制作経験を元に、それらをテーマとした実践的なアクティブラーニングを中心に研究している。また、メディアを使った若年層向け自殺予防対策も検討している。	博士：- 修士：講
教育	大池 茂樹 OIKE, SHIGEKI 教授 修士(教育)	<b>書道、書道教育、文字文化論</b> 高等学校芸術書道には漢字の書、仮名の書、漢字仮名まじりの書がある。中国日本の古代から現代までの書について、多角的に研究している。また、書学・書道史・書論、書道教育の歴史・制度など、様々な様相についても扱っている。	博士：研 修士：研
教育	森山 真吾 MORIYAMA, SHINGO 准教授 M.A.inAppliedLinguistics	<b>応用言語学、言語人類学</b> 他者と交流することで習熟度が高まるという前提で言語学習を捉えている。そのため、言語学習者に注目し、ある特定の集団において他者から認められた一員となるために使っている言語使用に興味を持っている。つまり、学習者の内面や心理よりも社会的・文化的な側面に注目している。	博士：講 修士：研

※担当について

博士：研……博士後期課程研究指導教員

博士：研補…博士後期課程研究指導補助教員

博士：講……博士後期課程講義のみ担当教員

修士：研……修士課程研究指導教員

修士：研補…修士課程研究指導補助教員

修士：講……修士課程講義のみ担当教員

●言語文化専攻(領域)、人文科学専攻(言語文化領域)

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
言語学・哲学	土橋 善仁 DOBASHI, YOSHIHITO 教授 Ph. D. in Linguistics	<b>言語学、生成文法</b> 生成文法と呼ばれる言語学の枠組みで研究を行っている。従来、この分野では統語、形態、音韻、意味など、言語の特定の側面について個別に研究することが主流であったが、近年、これらの部門間の関係に着目する研究も増えてきている。特に統語と音韻の関係について理論的な視点で研究を行なっている。	博士:研 修士:研
言語学・哲学	長滝 祥司 NAGATAKI, SHOJI 教授 博士(文学)	<b>認知現象学、心と身体の哲学、正義の哲学、皮膚の現象学</b> 人間は他人の心をどのように理解しているのか、AI やロボットのような人工物は心、感情などをもちうるのか、といったことについて、哲学的概念的アプローチと認知科学や神経科学などの経験的アプローチを統合した方法論をもちいて探求している。人間の心の謎に迫ることが、研究の目的である。また、サッカーのゲーム分析の言語に関する研究も行っている。	博士:研 修士:研
言語学・哲学	大滝 宏一 OTAKI, KOICHI 准教授 Ph. D. in Linguistics	<b>言語心理学、言語獲得、比較統語論</b> 子どもがどのように母語を獲得するのか(母語獲得研究)、また、大人になってから母語以外の言語を獲得する場合、母語獲得と何か異なるのか(第二言語獲得研究)、ということを中心に研究している。加えて、トンガ語など、多くの人々にとってはあまり馴染みのない言語の仕組みや獲得に関しても研究している。	博士:研 修士:研
言語学・哲学	樹本 健 KIMOTO, TAKESHI 准教授 Ph. D. in East Asian Literature	<b>日本思想史、比較思想</b> 近現代の日本思想を、西洋哲学との比較を通じて、思想的・比較思想的な観点から研究している。とりわけ京都学派哲学の社会や文化、歴史をめぐる議論に焦点を当てている。	博士:研 修士:研
言語学・哲学	岡見 友里江 OKAMI, YURIE 講師 修士(言語学)	<b>スペイン語学、対照言語学、社会言語学</b> スペイン語、日本語、英語における色彩語の統語的、形態的、意味的な対照研究を行っている。具体的には、名詞句内に現れる際のカテゴリー化の違い、それに伴う3言語の名詞句の内部構造の違い、意味解釈、特にイディオム解釈がどのように生成されるのかなどを研究している。	博士:講 修士:研補
英語学・英語教育	ジェームズ ダンジェロ James D' Angelo 教授 Ph. D. in English	<b>World Englishes and Curriculum</b> 私の研究の大部分は、英語のネイティブスピーカーモデルを促進するのではなく、日本の高等教育カリキュラムで世界英語とリンガ フランカとしての英語の理論を実装するための実用的な方法の開発に関係している。これは、英語のスキルクラスと、指導プログラムの媒体としての英語の両方で行われる。	博士:研 修士:研
英語学・英語教育	都築 雅子 TSUZUKI, MASAKO 教授 文学修士	<b>語彙意味論</b> 英語の結果構文や副詞類などについて、統語的・意味的・語用論的に考察している。最近では、事態把握の違いに基づく日英語の対照研究にも興味を持っている。	博士:研 修士:研
英語学・英語教育	中川 直志 NAKAGAWA, NAOSHI 教授 博士(文学)	<b>英語学、史的統語論</b> John is easy to please. のように主節の主語が不定詞節の目的語に対応する構文を tough 構文と呼んでいる。この構文の統語構造と派生の仕組みについて、理論的枠組みに基づいて分析を行うとともに、その歴史的発達についても研究している。	博士:研 修士:研
英語学・英語教育	松元 洋介 MATSUMOTO, YOSUKE 准教授 博士(文学)	<b>英語学、英語史、史的統語論</b> 英語の不定詞節の統語構造の中でも、不定詞関係節は前置詞に随伴される場合に限り WH 句が顕在的に現れる(例:a topic on which to talk)。この制限は不定詞疑問節では見られない。この両者の違いについて、英語史と理論言語学の両面からアプローチしている。	博士:研 修士:研
英語圏文化	岩田 託子 IWATA, YORIKO 教授 Master of Arts in Modern Literature	<b>イギリス文化、英語圏文学</b> 産業革命を先んじて推進した英国には近代のさまざまな問題と先がけて取り組んできた歴史がある。そのあらわれを検証していき、今ここのわたしたちにフィードバックすることが目標である。	博士:研 修士:研
英語圏文化	クリストファー アームストロング Christopher J. Armstrong 教授 Ph. D. in English Studies	<b>Canadian Literary and Cultural Studies</b> My research focuses on contemporary fiction, film and graphic novels by writers and visual artists from Atlantic Canada. I have published essays on various themes including consumerism, the road narrative and, most recently, the environment and climate change. Some of my research on fiction has focused on short stories, and I am particularly interested in exploring the unique aesthetic features and themes of contemporary short fiction.	博士:研 修士:研

●言語文化専攻(領域)、人文科学専攻(言語文化領域)

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
英語圏文化	武井 暁子 TAKEI,AKIKO 教授 Ph. D. in English	<b>イギリス文学</b> 18世紀後半からヴィクトリア朝末期までのイギリス小説における階級とジェンダーの研究を継続的に行っている。近年は日本におけるイギリス文学の受容、児童文学も研究対象にしている。	博士:研 修士:研
英語圏文化	森 有礼 MORI,ARINORI 教授 修士(文学)	<b>アメリカ文学・文化、児童文学・文化、表象文化、批評理論</b> 文学及び映像作品における人種、ジェンダー及び階級的マイノリティの表象を中心に研究している。いわゆる人種や民族だけでなく、子供や女性といった、社会的・文化的に「二次的」な主体とされてきた存在が、それぞれの時代や地域によってどのように表され、もしくは表されなかったか、ということを通じて、文化事象のイデオロギー性を批判的に検証している。	博士:研 修士:研
英語圏文化	千葉 洋平 CHIBA,YOHEI 准教授 博士(文学)	<b>アメリカ文学・文化</b> 1930年代から40年代においてアメリカ文学研究が他の学問に刺激されつつ、学問として成り立っていった過程を調査している。この頃のメディアテクノロジーの発展により、言語が誤解や解釈の多様性を生み出すという問題が認識されるようになった。そこでどのように文学批評家たちは他の学問の知見を取り入れて対応し、どのような文学の教授法を推進するに至ったかを研究している。	博士:講 修士:研
世界の文化	明木 茂夫 AKEGI,SHIGEO 教授 文学修士	<b>漫画アニメ翻訳論、中国地名カタカナ現地音表記、中国古典楽理、律呂、宮調、詞学、詞楽</b> 日本の漫画・アニメは海外でも人気があると言われる。しかし漫画やアニメには外国語に訳しにくい様々な表現が存在する。ダジャレや言葉遊び、元ネタがある表現、様々な擬音語擬態語、いずれも翻訳が困難な要素である。それらがどのように訳されているか、誤訳がある場合その原因は何か、そうしたことを多角的に研究している。	博士:講 修士:研
世界の文化	ジョン エスポジート John Esposito 教授 Ph. D. in Education	<b>言語文化</b> 自身の比較研究材料(例えば、建築、技術)もしくは、材料のない(例えば、言葉、教育)文化を立案し執り行っている。	博士:研 修士:研
世界の文化	齊藤 公輔 SAITO,KOSUKE 准教授 博士(文学)	<b>文化科学、外国語教育(ドイツ語)</b> 過去のイメージがメディアの中でどのように変化するかを、集合的記憶論の立場から研究している。第二次世界大戦に関するドイツ映画を主な研究対象としているが、文学館などのメディアにも興味を持っている。外国語教育について、ドイツ語教育を実践フィールドにしなが、語学能力のみならず21世紀型スキルも学ぶ授業を考案している。特に ICT 機器を用いたプロジェクト授業を中心に実践例を積み重ねている。	博士:講 修士:研
世界の文化	田中 鉄也 TANAKA,TETSUYA 准教授 博士(文学)	<b>宗教学、南アジア地域研究</b> インドの宗教と世俗主義とのかかわり、特に近現代でヒンドゥー教がどのように変容を遂げているのかについて研究している。具体的には、寺院の管理体制、宗教実践への法規制、さらに商業集団マールワリーの民族誌などである。インド等でフィールドワークや史料分析を行っている。	博士:研 修士:研
世界の文化	中島 太郎 NAKAJIMA,TARO 教授 Doctorat en Littérature Française	<b>フランス文学</b> 主に19世紀フランスの文学作品における歴史や宗教の表象について、同時代の社会や思想の動向を視野に入れながら研究している。	博士:講 修士:研

※担当について

博士:研……博士後期課程研究指導教員

博士:研補…博士後期課程研究指導補助教員

博士:講……博士後期課程講義のみ担当教員

修士:研……修士課程研究指導教員

修士:研補…修士課程研究指導補助教員

修士:講……修士課程講義のみ担当教員

●歴史文化専攻(領域)、人文科学専攻(歴史文化領域)

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
日本史	小川 和也 OGAWA,KAZUNARI 教授 博士(社会学)	<b>日本思想史、日本近世政治思想史</b> 江戸時代の儒学・仁政思想、藩学などを中心とした研究。藩学研究は越後牧野家・長岡藩をフィールドにしている。近年は幕末の越後長岡藩家老・河井継之助の思想研究をしている。そのほか、「国民的作家」大佛次郎と、大佛が生み出した時代小説の英雄・鞍馬天狗の研究も行っている。	博士:研 修士:研
日本史	白根 孝胤 SHIRANE,KOUIN 教授 博士(史学)	<b>日本近世史、幕藩関係論</b> 日本近世における幕藩制国家の構造について、徳川将軍家と大名家との関係(幕藩関係)や尾張藩政史の展開をテーマにして研究を行っている。また、絵画史料や写真史料の分析に基づく将軍と諸大名の儀礼や交流の様相など、文化史・社会史の側面からも研究に取り組んでいる。	博士:研 修士:研
日本史	中元 崇智 NAKAMOTO,TAKATOSHI 教授 博士(歴史学)	<b>日本近現代史</b> 明治期の自由民権運動と、それをリードした板垣退助ら自由党「土佐派」を中心に研究している。また、板垣自らが関わった『自由党史』や『板垣退助君伝』などで伝説化されている板垣の事績について当時の史料から再検討し、その実像を明らかにした。近年では、尾崎行雄と衆議院議員選挙についても研究している。	博士:研 修士:研
日本史	馬部 隆弘 BABE,TAKAHIRO 教授 博士(文学)	<b>戦国・織豊期論</b> 戦国期の京都を中心とする畿内の政治史を研究している。当時は、室町幕府の将軍家たる足利家と管領家たる細川家がそれぞれ二分し、複雑な家督争いを繰り返していた。その渦中から様々な新興権力が勃興し、やがて織田信長・豊臣秀吉が登場する。それらの権力を比較することで、統一権力の成立過程を捉えなおそうとしている。	博士:研 修士:研
日本史	小池 勝也 KOIKE,KATSUYA 准教授 博士(文学)	<b>日本中世史</b> 専門は日本中世史で、日本中世における政治と宗教の関係について研究している。特に、中世東国武家政権たる鎌倉幕府・鎌倉府と東国(関東)地域の寺社との関係に関心を寄せている。併せて、東国と畿内の宗教界の交流についても関心を持っており、その中間地域にあたる東海地域も含めて検討を深めていきたいと考えている。	博士:研 修士:研
日本史	溝口 優樹 MIZOGUCHI,YUKI 准教授 博士(歴史学)	<b>日本古代史</b> 政治集団である「氏」を通して、日本古代の政治や社会について研究している。また、日本古代における地域社会の実態についても考えている。これまでは大阪や奈良、熊本などの歴史を取り上げてきた。近年は愛知の古代史にも関心をもっている。	博士:講 修士:研
民俗学	小早川 道子 KOBAYAKAWA,MICHIKO 准教授 博士(文学)	<b>日本民俗学</b> 年中行事や人生儀礼といったハレの機会の食について、特にハレの魚の地域性について研究している。具体的には愛知県西三河平野部のボラをはじめとし、近年は他地域の事例について研究をすすめている。このほか、愛知県尾張東部や三重県北勢地域の「お月見どろぼう」についても、民俗行事の意味が変容して地域コミュニティ維持の役目を果たしている点に注目し、調査・研究を行っている。	博士:研 修士:研
世界史	多田 哲 TADA,SATOSHI 教授 博士(史学)	<b>西洋中世史</b> フランク王国カロリング朝時代の、キリスト教の社会への浸透について研究している。近年はこの時期のみならず、古代末期以来の歴史的状況も考慮し、文献史学・考古学の両面からこの問題に対峙している。またこの問題と不可分にある聖人崇敬という宗教文化的慣習を注視し、長い歴史のなかに位置づける仕事もはじめている。	博士:講 修士:講
世界史	米岡 大輔 YONEOKA,DAISUKE 准教授 博士(文学)	<b>西洋近現代史、東欧近現代史、ハプスブルク帝国史</b> 長らくヨーロッパに存立したハプスブルク帝国の歴史について、とくに19世紀後半から第一次世界大戦期にかけての南スラヴ諸地域を中心に研究している。	博士:講 修士:講

※担当について

博士:研……博士後期課程研究指導教員

博士:研補…博士後期課程研究指導補助教員

博士:講……博士後期課程講義のみ担当教員

修士:研……修士課程研究指導教員

修士:研補…修士課程研究指導補助教員

修士:講……修士課程講義のみ担当教員

●法・政治学専攻(法学領域)、社会科学専攻(法学領域)

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
憲法	水島 玲央 MIZUSHIMA, LEO 教授 法学博士	<b>アジアの民主化と人権</b> アジア諸国における民主化と人権状況に関心を持っており、そのなかでも韓国憲法を専門としている。韓国は1980年代に民主化し、憲法裁判所が設立されたが、憲法裁判所が民主化と人権の向上にどのような役割を果たしてきたか研究している。また法制度を通じて、韓国の社会や文化の理解を試みている。	博士:研 修士:研
憲法・行政法	横尾 日出雄 YOKOO, HIDEO 教授 法学修士	<b>憲法学、議会制度論</b> 国民代表機関たる議会と行政権を担当する行政府との関係について、国民主権における正当性や民意の反映という観点から考察し、国民の意思がどのように議会に反映され、また議会がいかにして行政府をコントロールするのか、という点を中心に研究を行っている。	修士:研
憲法・行政法	張 栄紅 ZHANG, RONGHONG 准教授 博士(法学)	<b>行政法</b> 行政基準論を中心に、都市計画及び環境に関する行政基準を素材に法的統制のあり方について中国やアメリカとの比較法研究を行っている。また、現在では、情報化時代におけるネガティブ情報の公表にも関心を寄せており、ネガティブ情報の公表に対する法的統制のあり方について比較法を交えた分析を進めている。	博士:研 修士:研
刑事法	緒方 あゆみ OGATA, AYUMI 特任教授 博士(政策科学)	<b>刑法、医事刑法</b> 精神障害犯罪者の処遇に関する「心神喪失者等医療観察法」の施行が、裁判所の刑事責任能力判断にどのような影響を与えているか、判例分析による最近の傾向やイギリスとの制度比較について研究している。その他、生命維持治療の中止や医師による自殺幇助と嘱託殺人罪の関係についても取り組んでいる。	博士:研 修士:研
刑事法	中川 由賀 NAKAGAWA, YUKA 教授 学士(法学)	<b>刑事法</b> 自動運転車の社会実装のためにどのような法整備をしていくべきかという問題や、自動運転車が交通事故を起こした場合に誰がどのような法的責任を問われるのかといった問題について研究している。	博士:研 修士:研
刑事法	保条 成宏 HOJO, MASAHIRO 教授 法学修士	<b>刑事法、医事法、障害法</b> 小児医療の現場では、親が子どもに必要な医療行為を拒否する「医療ネグレクト」が発生することがある。これに対して、刑法が民法(親子法)や児童福祉法と協働しながらどのような役割を果たすべきかについて研究している。	博士:研 修士:研
刑事法	中田 静 NAKATA, SHIZUKA 准教授 修士(法学)	<b>刑法、刑事政策、フランス刑事法、シンガポール刑事法</b> フランス刑法における法律の錯誤(違法性の意識)について研究を始めました。ポワティエ大学での在外研究や現地調査を進める中、フランス刑事司法における刑罰の多様性や柔軟性について、日本との比較研究を行っている。近年はシンガポールの刑事司法についてもイギリス法との伝承と独自の改革の視点から研究を行っている。	博士:研 修士:研
刑事法	山田 峻悠 YAMADA, TAKAHARU 准教授 博士(法学)	<b>刑事訴訟法</b> 自己負担拒否特権の本質に関して、英米の法理論・法実務との比較検討を通じて研究を行っている。近年では、とりわけ、捜査段階の黙秘権に着目し、身柄拘束下の取調べの規律などをテーマにして検討を行っている。	博士:研 修士:研
民事法	杉島 由美子 SUGISHIMA, YUMIKO 教授 法学修士	<b>民法</b> 民法の領域のうち、不法行為の分野を研究対象としている。民法だけでなく特別法上の被害者救済制度にも着目して、民事的な被害者救済制度はどうあるべきかについて研究している。また、消費者法の分野にも関心を持っており、消費者被害の救済のあり方等についても研究を進めている。	博士:研 修士:研
民事法	濱崎 智江 HAMASAKI, CHIE 准教授 修士(法学)	<b>民法</b> 民法(財産法)を研究対象としており、とりわけ多数当事者の債権関係に特に強い関心を抱いている。債務引受や契約上の地位の移転という制度についてドイツ民法との比較検討を通じて研究をしている。	博士:研 修士:研
民事法	永井 洋士 NAGAI, HIROSHI 講師 修士(法学)	<b>民法</b> 契約法、特に和解契約に関する研究に取り組んでいる。これまでは、フランス法を比較法の対象としながら、わが国の民法上の和解契約について研究してきたが、最近では、契約の内容規制や契約交渉過程における規律原理に関する研究にも取り組んでいる。	博士:研 修士:研

## ●法・政治学専攻(法学領域)、社会科学専攻(法学領域)

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
企業法	土岐 孝宏 DOKI, TAKAHIRO 教授 博士(法学)	<b>商法、保険法</b> 損害保険法については、損害填補という保険給付の方式、ひいては、それにかかわる法制度たる請求権地位、重複保険など、損害保険法の基本原理がどのような本質に基づく問題であるのか、従来の理解を再構築するための理論枠組みを提唱する研究をしている。生命保険法では、自殺免責法制、傷害・疾病保険法では、傷害3要件・給付事由の該当性、事故の非故意性の証明責任分配論や契約前発病不担保条項など、保険給付が阻害される局面の法問題に主たる関心を寄せ、研究を進めている。	博士:研 修士:研
企業法	新里 慶一 NIISATO, KEIICHI 教授 法学修士	<b>商法、手形法・小切手法、海商法、電子記録債権法</b> 商法には、取引の安全の要請から、外観主義に基づく制度が数多く定められ、また、論点に関して外観主義に基づき解決を図る理論がある。その外観主義の発展を研究している。	博士:研 修士:研
企業法	森 まどか MORI, MADOKA 教授 修士(法学)、LL. M(法学修士)	<b>商法、会社法</b> 社債をめぐる法規制のあり方を研究している。近年は、令和元年改正会社法により創設された社債管理補助者を通じた社債の管理のあり方や、グリーン・ボンドをめぐる規制のあり方について研究している。	博士:研 修士:研
社会法	柴田 洋二郎 SHIBATA, YOJIRO 教授 博士(法学)	<b>労働法、社会保障法</b> 社会保障財源についてフランスを対象に比較法制度研究をしている。社会保障の財源の問題は、保険料か、租税か、(この2つ以外も含めた)組み合わせか、だけにとどまらない。給付やサービスにより財源は異なるべきか、負担や給付の人的対象・方式(均一か、所得比例か)等、制度の根本にも及ぶ広がりのある問題である。	博士:研 修士:研
国際法	小山 佳枝 OYAMA, KAE 教授 修士(法学)	<b>国際法</b> 国際法の中でも、特に国際環境法と国際海洋法を専門としており、海洋生物多様性の保護及び保全、水中文化遺産の保護等をめぐる両者の関係について研究している。	博士:研 修士:研
国際法	保井 健呉 YASUI, KENGO 准教授 博士(法学)	<b>国際法、国際人道法</b> 国際法である国際人道法、中でも海戦に適用される海戦法規について、商船の航行への干渉や没収に関する規則の今日的な内容や妥当性の研究を主に行っている。そのほかにも、武力紛争法上の手続的義務を通じた戦争犠牲者保護の可能性についても研究を行っている。	博士:研 修士:研
基礎法	土井 崇弘 DOI, TAKAHIRO 教授 博士(法学)	<b>法哲学</b> 一方で個人の選択を尊重しつつ、他方で個人の利益を保護するという、魅力的な「第三の道」を明確に示そうとする立場である、リバタリアン・パターナリズムの射程をめぐる研究に取り組んでいる。これに関連して、暗黙知・実践知論、アーカイブズ論、メンバーシップ型雇用をめぐる諸問題、日本文化論などにも関心を持っている。	博士:研 修士:研
基礎法	矢切 努 YAGIRI, TSUTOMU 教授 博士(法学)	<b>日本近代法制史、地方自治制度史、税財政史</b> 近現代日本の地方自治制度の歴史を、主に法制度及び税財政の面から研究している。近年は特に、地方交付税制度の源流である1940年に構築された地方分与税制度(地方財政調整制度)の沿革を研究しているほか、近現代日本の文書管理の問題についての歴史的研究も行っている。	博士:研 修士:研
新領域	高野 慧太 TAKANO, KEITA 教授 博士(法学)	<b>知的財産法</b> 知的財産法全般を専門としているが、現在は特に、著作権法の保護範囲や権利侵害条件を研究対象としている。知的財産法における行政手続・訴訟手続のあり方、法と経済学を用いた分析、情報法分野についても研究している。	博士:研 修士:研
新領域	柳本 祐加子 YANAGIMOTO, YUKAKO 特任教授 法学修士	<b>民法、ジェンダー法学、子どもの権利論、教育法学等</b> 現在わたしたちが目にする憲法や法律は、近代における一定の考え方に基づきつくられたものがその原型となっている。その考え方がどのようなものであったのか、それがどのような影響を法体系に与えているのかをジェンダーの視点で分析することにより、成果や限界を明らかにする。この分析結果に基づき現行法と現状とを相互参照することにより現れる解決を要する課題を、立法論も含め考察提示するといった作業を研究として行っている。	博士:研 修士:研
租税法	荒川 章三 ARAKAWA, SHOZO 客員教授 修士(商学)、修士(法学)、修士(経済学)	<b>租税法、法人税法、税務争訟、税理士制度</b> 納税義務者と課税庁の見解が対立する中、法令等の解釈について時代の変遷や取引態様の変化に伴い、変更が行われ、課税処分を受ける事例を検討し、その結果として、法律改正に至る事例等を研究対象としている。	博士:研 修士:研
租税法	藤田 美咲 FUJITA, MISAKI 客員教授 学士(経済学)	<b>租税法</b> 現行制度における所得税法の内容、及びそれに関連する法人税法や相続税法、またそれらに係る政令・省令の内容と、現在に至る改正内容について、実務での適用という観点から捉えていく。	博士:研 修士:研

●法・政治学専攻(政治学領域)、社会科学専攻(政治学領域)

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
日本政治	京 俊介 KYO,SHUNSUKE 教授 博士(法学)	<b>政治過程論、行政学、公共政策論</b> 政治的事象を実証的に分析する政治過程論のうち、政策形成過程の分析に関心をもっている。とりわけ、政治家、官僚、利益集団、あるいは裁判所といった政治アクター間の相互作用が、なぜどのようにして政策の形成に影響を与えているのかを、ゲーム理論等を用いた理論的仮説と、主に事例分析(質的分析)による実証とを組み合わせ研究している。	博士:研 修士:研
日本政治	清水 直樹 SHIMIZU,NAOKI 准教授 博士(政策科学)	<b>比較政治学、選挙研究</b> 比較政治学、政治経済学、選挙研究の観点から、選挙と政策の関係について研究している。具体的には、体制・制度の違いが政策に与える影響、選挙タイミングと政策の関係、選挙タイミングの変更や選挙対策に対する有権者の反応などに関心をもって研究を進めている。	博士:講 修士:研
日本政治	鈴木 哲造 SUZUKI,TETSUZO 准教授 文学博士	<b>日本近現代史、台湾史</b> 帝国日本の医療・公衆衛生に関わる法制度の形成と展開並びに内地と外地(台湾等)の法制度上の「共通性」と「差異性」に着目して研究を進めている。近年は、政策立案と執行に密接に関係している技術官僚の動態や感染症対策等の課題に取り組んでいる。	博士:研 修士:研
日本政治	平良 好利 TAIRA,YOSHITOSHI 准教授 博士(政治学)	<b>沖縄現代史、日本政治外交史</b> 基地問題をめぐる政治過程や、日本復帰後の沖縄県の政治を中心に研究している。とくに近年は政党組織における本部・支部関係を研究している。その他、地方政治家へのインタビューを実施し、その証言記録を残す作業も行っている。	博士:研 修士:研
日本政治	ペロンセル モルヴァン Perroncel Morvan 准教授 Doctorat d'Asie orientale et sciences humaines	<b>政治思想史、近代日本史、グローバル・ヒストリー</b> 近代日本の政治思想と西洋の政治思想の関係をを中心に研究している。特に、明治時代の思想における国民主義と、戦後民主主義の代表者丸山真男の政治学を研究した。近年には、社会概念、優生学にも着目し、幅広く近代思想の歴史を調査している。	博士:研 修士:研
日本政治	寺岡 知紀 TERAOKA,TOMONORI 講師 Ph.D. in Rhetoric	<b>政治思想史、近代東アジア史、インテレクチュアルヒストリー</b> 近代東アジア、特に帝国日本のナショナリズム、資本主義、植民地(台湾)の思想的関連性について研究している。また歴史と理論を接合する方法論に関心があり、特に「現在」という時間において「過去」の歴史を書くという行為の意義について研究している。	博士:研 修士:研
公共政策	今井 良幸 IMAI,YOSHIYUKI 教授 博士(法学)	<b>憲法、地方自治法</b> 日本及びイギリスの憲法、地方自治に関する研究を行っている。特に日本の地方自治に関連しては、地方自治の憲法上の保障や、「住民自治」の視点からの地方自治制度のあり方、また道州制に関連して、地方自治体の持つ立法権や国と地方の関係などに関心を持っている。	博士:研 修士:研
公共政策	桑原 英明 KUWABARA,HIDEAKI 教授 法学修士	<b>行政学、行政管理論、日本の自治体行政</b> 日本の地方自治体の行政管理、組織と政策との関係、総務系統の組織による総括管理を中心に研究を進めている。とりわけ近年は、自治体の選挙管理、公文書管理、行政評価に関して聞き取り調査による事例研究を行っているほか、「行政の総合化」の視点から内務行政の理論的研究にも関心をもっている。	博士:研 修士:研
国際関係・国際開発	今野 泰三 IMANO,TAIZO 教授 博士(文学)	<b>中東地域研究、平和学、地政学</b> 中東地域のパレスチナ/イスラエルにおける、植民地主義とナショナリズムと宗教の相互作用を中心に研究している。近年は特に、イスラエルの入植者植民地主義と英国等の帝国主義との関係の中で先住民パレスチナ人の経験を考察するため、アラビア語文献の講読とパレスチナ難民のオーラルヒストリーの調査を実施している。	博士:研 修士:研
国際関係・国際開発	溜 和敏 TAMARI,KAZUTOSHI 教授 博士(政治学)	<b>国際関係論、南アジア地域研究</b> インドの国際関係について、とくにアメリカや中国、日本などの主要国との関係に着目して定性的アプローチから研究をしている。具体的なテーマとしては、インド太平洋の地域協力や、原子力協力、エネルギーをめぐる政治のメカニズムなどに取り組んでいる。	博士:研 修士:研

●法・政治学専攻(政治学領域)、社会科学専攻(政治学領域)

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
国際関係・国際開発	古川 浩司 FURUKAWA,KOJI 教授 修士(国際公共政策)	<b>国際関係論、境界地域研究</b> 日本の国境・境界に関する政策を、安全保障と国際交流の観点から研究している。また、前述の研究に加えて、日本の人権外交や人権・人道分野の国際機関の運営評価に関する研究も行っている。	博士:研 修士:研
国際関係・国際開発	尾和 潤美 OWA,MASUMI 准教授 Ph. D. in Politics and International Studies	<b>国際協力論、国際関係論</b> 開発協力分野においてどのようなアクターが存在し全体の協調や協力を進めるために何が必要とされているのか、国際機関を中心としてどのような開発協力政策が策定されているのか、また国際協力の現場である途上国においてどのような問題や課題があるのか等について、現地調査やインタビューを中心とした研究を行っている。	博士:研 修士:研
国際関係・国際開発	佐野 八重 SANO,YAE 准教授 Ph. D in Resource Management and Environmental Science	<b>環境保全／SDGsの社会科学的研究</b> 環境問題、資源利用に関連した人の行動と保全制度に関心を持っている。また、SDGsに関連して、外国人市民の社会的統合に関する研究を行っている。定量分析(社会調査データの統計分析等)、定性分析(聞き取り調査等)のどちらも扱う。	博士:研 修士:研
国際関係・国際開発	鶴田 綾 TSURUTA,AYA 准教授 Ph. D. in African Studies	<b>国際政治史、アフリカ研究</b> 民族対立がどのように形成されてきたのかを理解するために、ルワンダの民族紛争の歴史やアフリカを取りまく国際政治史を研究している。広い問題関心としては、民族、エスニシティ、脱植民地化などの歴史が現在をどう形作ってきたのかを理解することである。近年はベルギーをはじめとする旧植民地宗主国の植民地責任についても関心を持っている。	博士:講 修士:研補
国際関係・国際開発	本多 倫彬 HONDA,TOMOAKI 准教授 博士(政策・メディア)	<b>国際協力論、安全保障論、平和活動、政策決定過程</b> 平和活動(PKO等)と国際協力について、冷戦後日本の取り組みを中心に研究している。国際社会の動向と日本の対外政策の研究という形となるため、国外の援助の現場と国内の政策決定の現場を行き来しつつ研究を行っている。	博士:研 修士:研
国際関係・国際開発	ローゼンバウム 知佳 ROSENBAUM,CHIKA 准教授 Ph.D. in Political Science	<b>国際政治経済、計量政治</b> 自由貿易協定はどのような国家間で締結されるのかなど、政治と経済が交差する領域における研究を行っているほか、教育効果の測定なども含め、研究手法として統計学的手法を用いている。	博士:講 修士:研
国際関係・国際開発	栗田 真広 KURITA,MASAHIRO 講師 博士(法学)	<b>国際政治学、安全保障論、南アジア地域研究</b> インド・パキスタンを中心に、今日の核保有国が核兵器をいかなる形で活用するのか、そのためにどのような核戦力を保有するのかに関して、理論・実証の両面から研究している。また、国際紛争等のロールプレイを行うウォーゲームの研究への応用についても関心を持っている。	博士:講 修士:研補
国際関係・国際開発	メリサンダ ベルコウィツ Melisanda Berkowitz 講師 博士(学術)	<b>開発社会学、障害学、文化社会学</b> 近代社会が個人の経済的生産性を重視するなか、ケアを必要とする人の立場に関心があり、特に知的障害者の地域社会への参加の形態と促す取り組みを中心に研究している。急成長するバングラデシュ及び近年福祉制度が圧迫されるイギリスや日本で当事者家族への聞き取り調査を行なっている。	博士:研 修士:研

※担当について

博士:研……博士後期課程研究指導教員

博士:研補……博士後期課程研究指導補助教員

博士:講……博士後期課程講義のみ担当教員

修士:研……修士課程研究指導教員

修士:研補……修士課程研究指導補助教員

修士:講……修士課程講義のみ担当教員

●経済・経営学専攻(経済学領域)、社会科学専攻(経済学領域)

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
経済理論	佐藤 茂春 SATO, SHIGEHARU 教授 博士(経済学)	<b>応用ミクロ経済学、政治経済学、法と経済学</b> 現在、投票による地域分離を中心に研究している。近年、イギリスの国民投票による欧州連合(EU)からの離脱の決定など、各地で投票による分離運動が盛んに行われている。そこで、現実の民主的決定手続きが地域分離に対してどのような帰結をもたらすのか、また、地域分離に影響を与える重要なファクターは何かなどを理論やデータを用いて分析している。	博士:研 修士:研
経済理論	中山 恵子 NAKAYAMA, KEIKO 教授 博士(経済学)	<b>ミクロ経済学、環境経済学</b> 森林大国のわが国にとって、森林の保全・最適成長は大きな課題である。近年は、森林が涵養機能を果たすための財源として、森林環境税(国税)が導入された。しかし、この税の徴収方式、配分方法、用途などが本当に理にかなっているか、さらに適した環境税はあるのか、を研究している。	博士:研 修士:研
経済理論	斎藤 佑樹 SAITO, YUKI 講師 博士(経済学)	<b>経済成長理論、マクロ経済学</b> 研究開発(R&D)活動に基づく経済成長に関して理論的に研究を行っている。近年は海外アウトソーシングを含む中間財貿易を考慮したR&D活動に基づく経済成長についてのモデルを用いて、特許保護を含む知的財産権保護政策や貿易政策についての研究を行っている。	博士:研 修士:研
経済理論	森本 貴陽 MORIMOTO, TAKAAKI 講師 博士(経済学)	<b>経済成長論</b> 持続的な経済成長をもたらす要因として、人的資本蓄積や研究開発といった知識の蓄積、自動化による生産構造の変化などに焦点を当て、様々な政策がそれらの要因を通して経済成長率や格差、社会厚生に与える影響について、理論研究を行っている。	博士:研 修士:研
経済分析	阿部 英樹 ABE, HIDEKI 教授 農学博士	<b>日本経済史</b> 経済面から、地域社会の歴史を研究している。近世後期から高度成長期の歴史資料の収集・解読を進めながら、地域経済の長期的分析に取り組んでいる。主な関心は経済の発展と地域の関係性であり、農村地域社会の変容過程にくわえて、近年は都市における地域社会の変容過程を対象にしている。	博士:研 修士:研
経済分析	樫 建也 TSUBAKI, TATSUYA 教授 Ph. D. in Social History	<b>イギリス都市史、住宅政策史</b> 社会経済史の手法を基盤に、社会学、建築、都市計画、公衆衛生などの隣接・関連諸領域の知見にも目配りしながら、20世紀イギリス都市の歴史的發展を検討している。両大戦間期の社会と住宅をめぐる諸問題、第二次世界大戦に伴う戦災復興の実態、1950年代以降の都市再開の展開を主要な研究対象としている。	博士:研 修士:研
経済分析	西村 一彦 NISHIMURA, KAZUHIKO 教授 博士(工学)	<b>社会システム工学</b> 経済モデリングにおいて中心的な役割を担う集計関数(生産関数や効用関数)の形式やパラメータ推定の研究を行っている。また、集計関数を集めた一般均衡モデルの構築を通じて、様々な経済政策やイノベーションが与える社会的費用便益や経済動学的特性の評価に関する研究を行っている。	博士:研 修士:研
経済分析	増田 淳矢 MASUDA, JUNYA 教授 博士(経済学)	<b>統計学、計量経済学</b> 時系列データを利用した計量モデルの構築を中心に行っている。特に非定常時系列モデルや時空間モデルの構築を行っている。また、それらのモデルにおいて縮小推定量を用いての推定等も研究している。	博士:研 修士:研
経済分析	石田 貴士 ISHIDA, TAKASHI 准教授 博士(経営学)	<b>消費者行動論、フードシステム学、消費者心理学</b> 消費者の意思決定に心理的・認知的要因がどのような影響を与えるかについて、アンケート調査により集めたデータを計量経済学的手法を用いて分析している。また、生活習慣改善など消費者の意識・行動変容を促すための説得的コミュニケーションにも関心がある。	博士:研 修士:研
経済分析	竹下 諒 TAKESHITA, RYO 准教授 博士(商学)	<b>教育経済学、応用計量経済学</b> 個票データを用いて、どのような要因が大学進学の意味決定に影響を与えるか、また教育年数が賃金や就業選択に与える影響について計量経済分析を行っている。これらに加えて、非認知能力が学力や労働市場における人的資本蓄積に与える影響についても研究している。	博士:講 修士:研
経済分析	塚本 高浩 TSUKAMOTO, TAKAHIRO 准教授 博士(経済学)	<b>応用計量経済学、地域経済学</b> 人口減少や少子高齢化に直面するわが国にとって、産業や企業の生産性の向上は喫緊の課題である。そこで生産者間の相互依存関係を考慮した計量経済学的な生産性・効率性分析手法を開発し、わが国の実際のデータを用いて分析を行っている。	博士:研 修士:研

## ●経済・経営学専攻(経済学領域)、社会科学専攻(経済学領域)

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
経済分析	西本 和見 NISHIMOTO,KAZUMI 教授 博士(経済学)	<b>経済学説史、経済思想</b> 20世紀のアメリカにおいて、経済学方法論が周辺学問領域に影響を与える「経済学帝国主義」と呼べる状況が生まれた。経済学のどのような理論が影響を与えたのか、その時どのような議論があったのか、から経済学と周辺学問領域の関係を考えている。近年はその19世紀アメリカの学説史や社会的選択論周辺の思想も研究している。	博士:研 修士:研
経済理論	巽 一樹 TATSUMI,KAZUKI 講師 博士(経済学)	<b>経済成長理論、マクロ経済学</b> 生産要素間の代替補充関係に着目し、経済成長に関する理論的な研究を行っている。特に、近年の日本を含む先進諸国における経済成長の停滞及び格差拡大に関心がある。人口減少社会における持続的な経済成長を達成するために少子化やロボット資本の発展について研究を行っている。	博士:講 修士:研
経済理論	前田 大輝 MAEDA,DAIKI 講師 博士(経済学)	<b>マクロ経済学、金融政策</b> 個人の時間非整合な選好を考慮したマクロ経済モデルを構築し、金融政策の分析を行っている。	博士:講 修士:研
経済政策	内田 俊博 UCHIDA,TOSHIHIRO 教授 Ph. D. in Economics	<b>環境経済学</b> 環境問題における消費者の利他的行動や企業の社会貢献活動など、環境経済学と行動経済学の境界領域のテーマを研究している。分析手段としてはデータサイエンスの様々な手法を適用することを試みている。	博士:研 修士:研
経済政策	大森 達也 OMORI,TATSUYA 教授 博士(経済学)	<b>マクロ経済学、公共経済学、財政学</b> 人口の少子化・高齢化が生じる社会の問題に対する財政政策を経済学の観点から研究している。世代間の問題について、例えば、日本の人口減少の原因の一つである教育費の問題や高齢化に伴う医療・年金・介護の問題について、国全体の問題だけでなく、地域政策の問題として捉えて、理論的な研究を行っている。	博士:研 修士:研
経済政策	岡本 祥浩 OKAMOTO,YOSHIHIRO 教授 博士(学術)	<b>居住福祉論</b> 第二次世界大戦後の日本社会は、経済成長によって居住水準を向上させる「就労自立」の仕組みを追求してきた。しかしながら、経済の低成長と不安定化、経済のグローバル化、人口構造の高齢化と世帯規模の縮小、激甚災害の頻発化を背景に「就労自立」の仕組みは機能しなくなった。そこで、一人ひとりにふさわしい生活を実現する「生活資本」の構築を基盤にすることが求められている。「生活資本」構築の仕組みを研究している。	博士:研 修士:研
経済政策	釜田 公良 KAMADA,KIMIYOSHI 教授 博士(経済学)	<b>公共経済学、家族の経済学</b> 親と子の経済行動と世代間所得移転政策をゲーム理論を用いて研究している。親の行動では、子への教育投資、贈与、遺産、子の行動では、勉学における努力、就職後の居住地の選択、老後の親に対するケアなどが分析対象である。現在は、複数の子がいる場合の居住地パターンと親に対するケアの配分について研究している。	博士:研 修士:研
経済政策	鈴木 崇児 SUZUKI,TAKAJI 教授 博士(工学)	<b>交通経済学、交通工学、交通ネットワーク分析</b> 自動車と公共交通機関のような異手段のネットワークに跨った料金政策を主として研究している。	博士:研 修士:研
経済政策	平澤 誠 HIRAZAWA,MAKOTO 教授 博士(経済学)	<b>財政政策</b> 人口構造の変化を内生的に考える経済モデルを使って、世代間の問題を中心に理論的に研究している。	博士:研 修士:研
経済政策	古川 章好 FURUKAWA,AKIYOSHI 教授 博士(経済学)	<b>公共経済学、地方財政論</b> 地方分権時代において、市町村合併に関連した最適人口規模および地域人口規模と地方政府活動との関連を研究している。近年は市町村合併政策の評価および人口規模が小さな地域における今後の地方財政政策のあり方を研究しているほか、これらの地方財政問題に対する国の介入のあり方を検証している。	博士:研 修士:研
経済政策	齊藤 由里恵 SAITOH,YURIE 教授 博士(経済学)	<b>社会保障論、財政学、地方財政</b> 人口減少社会における社会保障財政、地方財政を中心に研究している。人口高齢化により社会保障給付費の増加、それに伴う社会保障費負担の増加、人口減少など、日本の社会保障財政はひっ迫し続ける中で、どのような社会保障が望ましいのか、どこまで公的関与をすべきなのか等、制度や国と地方の事務配分について考察している。	博士:研 修士:研

●経済・経営学専攻(経済学領域)、社会科学専攻(経済学領域)

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
経済政策	深堀 遼太郎 FUKAHORI,RYOTARO 准教授 博士(商学)	<b>労働経済学</b> 人々の就業行動に関する実証研究を行っている。これまで、主に育児や介護に関する制度変更が労働供給に与える影響について、家計パネルデータなどのマイクロデータを用いた計量経済分析を行ってきた。	博士:研 修士:研
応用経済	小林 毅 KOBAYASHI,TAKESHI 教授 博士(経済学)	<b>金融論</b> 現在特に関心があるのは保険市場・保険会社とJ-REIT市場である。保険会社については、保険会社や少額短期保険業者の経営効率性などの実証分析を行っている。またJ-REIT市場については、運用における利益相反問題や日銀によるJ-REIT買い入れの影響についての分析をおこなっている。	博士:研 修士:研
応用経済	近藤 健児 KONDOH,KENJI 教授 博士(経済学)	<b>国際経済学</b> 外国人労働者の受け入れによる経済的影響を、環境汚染、貿易、再生可能資源、農村経済などの視点を考慮して分析している。非合法の外国人労働者に対する規制政策の有効性や経済的な意味についても研究している。	博士:研 修士:研
応用経済	都丸 善央 TOMARU,YOSHIHIRO 教授 博士(経済学)	<b>産業組織論</b> 公企業と私企業が混在・競争する混合寡占市場について理論研究している。とりわけ、混合寡占市場において、社会的に望ましい公企業の所有形態(つまり、どの程度民営化するべきか)や、望ましい産業政策(たとえば、補助金政策)に関心を持っている。	博士:研 修士:研
応用経済	福田 勝文 FUKUDA,KATSUFUMI 准教授 博士(経済学)	<b>国際貿易論、経済成長論、空間経済学</b> 企業の異質性・基礎研究・応用研究を考慮した対称2国モデルを構築し、貿易自由化(異なる2国間で財を輸送するときにかかる輸送費の追加的な減少)が定常状態における経済成長率や厚生に与える影響を分析し、経済成長率や厚生がそれぞれ増大(下落)するための条件を求めた。	博士:研 修士:研
応用経済	石井 北斗 ISHII,HOKUTO 准教授 博士(経済学)	<b>金融論</b> 金融市場について理論と実証の両面から研究している。金利期間構造と外国為替市場の関係や金融政策が金融市場に与える影響について分析している。	博士:研 修士:研

※担当について

博士:研……博士後期課程研究指導教員

博士:研補…博士後期課程研究指導補助教員

博士:講……博士後期課程講義のみ担当教員

修士:研……修士課程研究指導教員

修士:研補…修士課程研究指導補助教員

修士:講……修士課程講義のみ担当教員

●経済・経営学専攻(経営学領域)、社会科学専攻(経営学領域)

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
組織・マネジメント	川端 勇樹 KAWABATA, YUKI 教授 博士(学術)	<b>組織間関係論、組織論、国際ビジネス</b> 地域の発展に向けて競争力の高い新産業を振興させることは、日本をはじめ世界各国の重要課題であり、そのためには各地域において従来の垣根を超えた異分野間連携が不可欠となる。これをいかに促進し産業エコシステムを発展させていくかについて、国内外(特に欧州)の事例を研究している。	博士:研 修士:研
組織・マネジメント	谷口 勇仁 TANIGUCHI, YUJIN 教授 博士(経済学)	<b>企業と社会論、経営倫理論</b> 企業事故(JR福知山脱線事故など)や企業不祥事(雪印乳業集団食中毒事件など)がどのようなメカニズムで発生するのかについて、「事故・不祥事を引き起こした当事者の視点」から研究し、事故防止活動・コンプライアンス活動のポイントについて検討している。	博士:研 修士:研
組織・マネジメント	寺村 絵里子 TERAMURA, ERIKO 教授 博士(社会科学)	<b>人的資源管理</b> 企業の人的資源管理と業績の関係、および個人の就業行動について実証的に研究している。特に日本の雇用慣行がジェンダー格差に与える影響に注目し、組織と個人の双方からメカニズムを解明している。これからの働き方や組織マネジメントのあるべき姿を、多角的な視点から検証する。	博士:研 修士:研
組織・マネジメント	濱田 知美 HAMADA, TOMOMI 准教授 博士(経済学)	<b>技術経営論、経営戦略論</b> 日本の製造業の経営戦略、製品・研究開発戦略を中心に研究している。質問票調査や特許情報、製品、市場、企業業績といった様々なデータを用いて多変量解析を行い、企業の技術戦略や製品戦略のパフォーマンスの数値化に関する研究を行っている。	博士:研 修士:研
組織・マネジメント	浜田 敦也 HAMADA, ATSUYA 准教授 博士(商学)	<b>中小企業論、生産管理論</b> 主に中小企業を対象として、経営者スキル(能力)が事業承継前後でどのように変化したのかについて、定性的調査手法を用いて研究している。最近は先代経営者が後継者の経営を支える場合での能力的補充関係についても検討している。	博士:研 修士:研
組織・マネジメント	楊 一 YANG, YI 准教授 博士(経営学)	<b>経営組織論</b> 日本のエンターテインメント産業における企業組織の創造性について、組織の制御と創造的自由の観点から研究している。分析手法としては、複数の事例を取り上げ、事例分析・歴史分析を行っている。	博士:研 修士:研
経営戦略	金 炫成 KIM, HYUNSUNG 教授 博士(経済学)	<b>ベンチャービジネス論、日韓企業の比較研究</b> ベンチャービジネス関連の諸課題について研究している。対象エリアは日本と韓国が中心だが、タイなどの東南アジアへの拡張も視野に入れている。近年は、ベンチャークラスターの発展パターンに関する研究のほか、ITベンチャー企業における国際労働移動に着目した共同研究にも加わっている。	博士:研 修士:研
経営戦略	佐藤 祐司 SATO, YUJI 教授 博士(工学)	<b>経営科学</b> 経営科学の一分野であるゲーム理論を活用し、国際紛争の解決に向けた理論的研究を行っている。また、同手法のひとつである階層分析法の理論的改良と並行して、その行政評価に対する活用可能性についても研究している。自治体における行政評価に同手法を実際に導入し、PDCAサイクルの改善に取り組んでいる。	博士:研 修士:研
経営戦略	銭 佑錫 JUHN, WOOSOK 教授 修士(経済学)	<b>国際経営</b> 主に日本多国籍企業の海外子会社を対象にして、時間の経過による能力構築と役割の変化について研究している。そのために、海外子会社を実際に訪問して行うインタビュー調査を基に定性的な研究を行っている。海外子会社の能力構築と関連しては、日本型経営生産システムの移転の成果に焦点を当てて分析を行っている。	博士:研 修士:研
経営戦略	中村 雅章 NAKAMURA, MASAOKI 教授 工学博士	<b>ビジネス戦略、情報戦略</b> 企業がライバルに対して競争優位を確立するための方策であるビジネス戦略を研究している。インターネットを活用した新しいビジネスモデルの構築など企業のネット戦略に注目している。最近は、ネットとリアルチャンネルを融合したオムニチャネル戦略に関心をもち、事例調査と理論研究を行っている。	博士:研 修士:研
経営戦略	永石 信 NAGAISHI, MAKOTO 教授 博士(経営学)	<b>組織開発・組織変革、国際ビジネス戦略</b> グローバル企業における組織開発(Organization Development)的な戦略策定・戦略実行についての理論的・実証的研究を行っている。アメリカ時代(2001-2005年)に組織開発という領域に出会い、そのコンサルティング実践と研究に目覚めた。2017年よりカナダSimon Fraser UniversityのGervase Bushe教授との共同研究を開始し、共著英語論文、単著英語論文を多数発表している。	博士:研 修士:研

## ●経済・経営学専攻(経営学領域)、社会科学専攻(経営学領域)

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
経営戦略	弘中 史子 HIRONAKA, CHIKAKO 教授 博士(経済学)	<b>中小企業論、技術マネジメント論</b> 日本が世界に誇る製造業では、高い技術力を持つ多くの中小企業が活躍している。また海外展開も盛んに行っており、私もアジアへの進出に着目して分析している。マレーシアに在住していたことをきっかけに、日本企業のHALAL戦略についての研究も行っている。	博士:研 修士:研
経営戦略	向日 恒喜 MUKAHI, TSUNEKI 教授 博士(工学)	<b>経営情報論、組織行動論</b> 職場における知識共有行動の規定要因について研究している。特に従業員の心理的側面に注目し、自尊心、心理的居場所感などが与える影響について、主に計量的アプローチで検証している。	博士:研 修士:研
経営戦略	松原 日出人 MATSUBARA, HIDETO 准教授 博士(商学)	<b>経営史、経営戦略</b> 経営史は、中長期的な視点から経営のあり方やその手法がいかに変化・発展してきたのかを議論する学問分野である。そのなかで特に地域に根ざす企業や産業を対象とした研究を行っている。あわせて、経営に関する変化・発展のような新局面を創出する主体に着目した企業家論的な研究も行っている。	博士:研 修士:研
マーケティング	赤沢 克洋 AKAZAWA, KATSUHIRO 教授 博士(農学)	<b>地域資源管理学、マーケティング・リサーチ</b> 地域資源に関わるステークホルダー(利害関係者)には、消費者、生活者、参加者、旅行者、住民、生産者、販売者、企業、行政などの様々な主体が存在している。これらの主体の嗜好・意識・評価・行動に注目し、その定量的な把握と分析を通して地域資源管理に資する戦略を提示することに取り組んでいる。	博士:研 修士:研
マーケティング	太田 真治 OTA, SHINJI 教授 修士(経済学)	<b>国際マーケティング論</b> 国際マーケティングに関するパラダイム研究。特に米中対立の中で国際マーケティングがどう変わっていくかについて研究している。過去には東南アジアにおける日系企業を研究している。	博士:講 修士:講
マーケティング	宮内 美穂 MIYAUCHI, MIHO 教授 修士(商学)	<b>マーケティング</b> マーケティングにおいて交換とは重要な概念であるが、確固とした売り手と買い手、確固とした使用価値と消費欲望の間でなされる交換と捉えるのではなく、商品の基本的属性や行為主体の意図という枠から解放されより自由に交換を捉えるために、市場に顕れる具体的な現象を読み解きながら交換を論じている。	博士:講 修士:講
マーケティング	小倉 優海 OGURA, YUUMI 助教 博士(経営学)	<b>マーケティング、広告論、マーケティング・コミュニケーション</b> 多くの企業がオリジナルなキャラクターを作成し、宣伝活動に活用している。そのような現象に着目し、企業由来のキャラクターがマーケティング・コミュニケーションに及ぼすのかについて研究している。 また、生成AIなどの機械の擬人化についても関心があり、現在はチャットボットの擬人化に関する研究も行っている。	博士:講 修士:講
会計・ファイナンス	梅田 守彦 UMEDA, MORIHIKO 教授 博士(商学)	<b>会計学</b> 学校法人の会計基準と私立大学(の財政)政策との係わりについて調べている。私立大学の今後の在り方は、高等教育の財政政策に大きく左右されることになる。学校法人会計基準の成立過程をたどりながら、各種関係者の思惑を理解したいと考えている。	博士:研 修士:研
会計・ファイナンス	峯岸 信哉 MINEGISHI, SHINYA 教授 Ph. D. in Economics	<b>金融機関論、金融システム論</b> 企業を取り巻く環境は良くも悪くも複雑になっており、そうした企業をフォローする存在(支援機関)としての金融機関はますます重要な存在になっている。我が国の中小企業向け金融機関中でも協同組織金融機関に焦点を当てている他、英国の協同組織金融機関との比較にも目を向けている。	博士:研 修士:研
会計・ファイナンス	矢部 謙介 YABE, KENSUKE 教授 博士(商学)	<b>コーポレート・ファイナンス</b> M&A(企業の合併・買収)が株式市場からどのように評価され、また財務業績にどのような影響を与えているのかについて研究している。M&A以外では、企業の財務状況や業績(財務諸表)とビジネスモデルなどの関係性についても関心を持っている。	博士:研 修士:研
会計・ファイナンス	吉田 康英 YOSHIDA, YASUhide 教授 博士(経済学)	<b>金融商品会計、金融機関の会計及び監査</b> 金融商品の会計について、金融商品に特有のキャッシュ・フローとリスクの実態の反映、そのリスク管理との関係性を視座として研究している。近年は特に国際会計基準と米国会計基準の比較検討を行いながら、金融監督当局の規制方針等の我が国固有の問題を念頭に置いた日本基準の見直しの方向性を研究している。	博士:研 修士:研

●経済・経営学専攻(経営学領域)、社会科学専攻(経営学領域)

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
会計・ファイナンス	加藤 政仁 KATO, MASAHITO 准教授 博士(経営学)	<b>コーポレート・ファイナンス</b> ESGファイナンスの実態、ESGインデックスへの採用の効果、ESGアナリストの情報生産機能など、ESGに関連するファイナンス課題についての実証研究を行っている。	博士:研 修士:研
会計・ファイナンス	齊藤 毅 SAITO, TAKESHI 准教授 博士(経営学)	<b>管理会計</b> ソフトウェア開発業や建設業のようなプロジェクト型企業を対象として管理会計システムに関する研究に取り組んでいる。管理会計システムとは、企業の経営管理者(社長・部長・課長など)に対して、業績評価や意思決定等に役立つ会計情報を提供する仕組みである。	博士:研 修士:研
会計・ファイナンス	中村 将人 NAKAMURA, MASATO 准教授 博士(経営学)	<b>会計史、公会計論</b> これまでは、戦前期日本の国鉄や「満鉄」など鉄道会計について研究を行ってきた。最近は、「満鉄」の研究から展開させて、日本の植民政策に対する簿記・会計の寄与に関して研究している。簿記・会計は単なる技術と捉えられがちだが、歴史を紐解くと社会経済に少なからず影響を与えた存在であることがわかる。	博士:研 修士:研

※担当について

博士:研……博士後期課程研究指導教員

博士:研補…博士後期課程研究指導補助教員

博士:講……博士後期課程講義のみ担当教員

修士:研……修士課程研究指導教員

修士:研補…修士課程研究指導補助教員

修士:講……修士課程講義のみ担当教員